幼児だより　10月号

2022年10月1日　発行

いつの間にか、季節はすっかり秋模様となってきました。子どもたちは、どんぐりを拾ったり、落ち葉を集めたりと、秋の自然に親しんでいます。昼夜の気温差が大きい季節でもあるので、健康面には十分に気をつけていきたいと思います。

９月１０日（土）には３年ぶりにみどり野秋まつりを開催することができました。何日も前から「あと何回寝たら秋まつり？」と楽しみにしていた子どもたち。くじらさんは出し物のお店決め、準備など話し合いを何度も重ねました。当日はお家の方とお店屋さんを担当する子どもたちの楽しそうな顔とお客さんで来ていたらっこさん、いるかさんのキラキラした笑顔が印象的でした。景品や出し物の準備、当日のお手伝い等携わって下さった保護者の皆様のご協力に感謝致します。今月は運動遊びの日、お芋ほりなどの行事があります。元気な姿で参加できますように。

みどりの秋祭り

久しぶりのおさんぽ

うんどうあそびの日への取り組み

たくさんの気づき☆

秋になり、隣の公園にたくさんのどんぐりが実り落ちてきます。
それを見つけた子どもたちはたくさん集めて転がしたり、洗ったり、砂場の玩具にしたりと遊び方は色々です。
すると遊びの中でＨちゃんは何かに気が付きました。
「**どんぐりから音がする！！**」
その疑問を解決するためにＨちゃんは遊びをやめて
どうすればどんぐりを割ることが出来るのか考えます☆

その様子をみていたＳちゃんも
どんぐり割りに挑戦！
Ｈちゃんと Ｓちゃんのを比べて
みることになり、２人で協力し
どんぐりを割っていました。

割れた中身を目で見比べるだけでなく色の違いや感触に気付き（つるつるとザラザラ）においも嗅いでいました。Ｈちゃんはどんぐりの違いに気付くと更に次々とどんぐりを割っていました！
おもしろいを深堀して、気になることを知ろうとする気持ちがあったからこそ、新たな発見があったのだと感じました。
子どもの感じた疑問に対して答えることは簡単ですが、これからも子どもと一緒に疑問を解決していける存在でいたいと思いました。

ぼくもやってみたいなぁ

自分で、ピタゴラスイッチのようなものを作って楽しんでいたＧくん。友だちのしていることを気にしてはいるものの、まだまだ自分の遊びを守りたいという思いが強い(一緒に遊んでいると当たって壊れるかも…自分が使いたいだけ使えないかも…)ところもあったＧくんですが、この頃では一緒のことで楽しみたいという思いも強くなってきたようです。友だちの近くで、場所の共有をしながら遊ぶ姿も見られるようになっています。

４月に進級してうみグループに仲間入りしたＧくんも少しずつ年上のお兄さん、お姉さんのことが気になるようになり特に遊びの面ではたくさん刺激を受けてきました。興味を持ったことには大人の手助けなしに自ら近づいて行けるようにもなりました。同じことをすることで成功体験を増やしていき、どんどん自信をつけ、自ら楽しいことを発見していける子になる事と思います。実際に、砂場でのケーキ作りを見た後は同じことをして「できた」という体験に繋がり、新たな自信がついたことと思います。その楽しいことを、今後は友だちと共有できる楽しさも感じ過ごせるようになってくれることを、楽しみに見守りたいと思います。

はじめて、ひとりで できたの！

子ども達が楽しみにしている「みどりのうんどうあそびのひ」まであと少し。どの子も運動遊びに一生懸命取り組んでいます。Ｋちゃんもそのうちの一人です。

４月から少しずつ取り組んできた、逆上がり。
大人に足を持ってもらうと出来ていたので、この日も「手伝おうか」と声を掛けると、「いらん」と言います。
Ｋちゃんは高さの違う鉄棒を使って一人で逆上がりに挑戦しようと頑張っているのです。

① 鉄棒をしっかり握ります。
② 高い方の鉄棒に足を掛け、鉄棒をキック！
③ 足を伸ばして後ろへ
④ “布団”のポーズ
⑤ ゆっくりと頭を上げて…
⑥ 「できた！」

この日、Ｋちゃんは初めて大人の補助なしに逆上がりが出来ました。一人で出来たことが嬉しくてたまらない様子で、出来る度に保育士とハイタッチ！

「自分で出来た！」という達成感は次の意欲へと繋がります。今までは３回くらい練習して「(お腹が擦れて)いたい～」と言って次の遊びを見つけに行っていたＫちゃんですが、この日は「いたい～」と言いながらも何度も逆上がりをしていました。

Ｋちゃんの姿を通して、「出来た」という気持ちが子ども達にとってどれだけ大切で嬉しいものであるかを再確認しました。
でもその「出来た」の前には「出来なくて悔しい」「こうなりたいのに…」といった気持ちもあったと思います。その気持ちをやる気に変えられた時、子ども達はひと回り大きくなっていきます。
運動遊びの日、それぞれの子が自分の頑張りを感じる日となるように願っています。

見立てて、付け足して、楽しい！

Ｓちゃんが粘土で遊んでいます。
保育士が作ったお団子に筋をつけたものに興味を持って、「それ、ちょうだい」とＳちゃん。
貰うとしばらく手に持ってニコニコしています。貰ったのが嬉しかったのでしょうか？それとも、同じものを作りたいと思って観察しているのでしょうか？

しばらくして、Ｓちゃんは貰ったものは脇に置いて、粘土を手で丁寧に広げ始めました。
少しずつ破れないように丁寧に伸ばしています。
伸ばし終えると、さっき貰った粘土を真ん中に乗せて…

Ｓちゃんは、保育士から貰ったお団子をみかんに見立てて、
自分でみかんの皮を作って付け足したのでした。
みかんを作って嬉しそうに見せてくれたＳちゃん。
出来た後は、粘土の皮を剥いて“みかんごっこ”を楽しむＳちゃん。皮を作って剥いて、また皮を作って剥いて…。粘土の良さを活かして何度もみかんごっこを楽しんでいました。

この日の前日、Ｓちゃんはフルーツポンチの絵本を見て、ダンスを踊りました。また、午前中はフルーツの塗り絵をして遊びました。

色々なフルーツを見たり作ったり体で表現したりして関心が高まって、このような遊びに繋がったのかもしれません。
Ｓ ちゃんの発想豊かな遊びを間近で見られたことも、日々の保育が子ども達の遊びに繋がっていることも嬉しく感じました。